

大項目第1 大学の教育研究等の質向上に関する目標を達成するための措置

中期計画	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度(11/1時点)		
	年度計画	実施状況及び判断理由	自己評価	年度計画	実施状況及び判断理由	自己評価	年度計画	実施状況及び判断理由	自己評価	年度計画	実施状況及び判断理由	自己評価	年度計画	実施状況及び判断理由	自己評価
<p>(2) 学生の確保 ア 学部 ① 本学が期待する入学者像を分かりやすく示した大学案内等を作成し、ホームページに掲載する。また、オープンキャンパス、高校訪問及び入試説明会等を積極的に進めること、本学への理解を深め、県内高校生の看護学への関心を喚起する。</p>	<p>① 高校生等に本学の魅力ある教育を周知するため大学案内、ホームページ等を点検し、見直す。本学の魅力を広く伝えるためオープンキャンパス、高校訪問、進学説明会を積極的に進めること、本学への理解を深め、県内高校生の看護学への関心を喚起する。</p>	<p>① 高校生等に本学の魅力ある教育を周知するため、教育理念・目的・目標、アドミッション・ポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、教育内容など大学教育の情報が適切に発信されるよう、ホームページやキャンパスガイドブックの掲載内容・構成を充実させた。特にホームページに地域貢献活動、開学20周年記念行事、動画配信バナーを作成し、看護大学の魅力を発信した。オープンキャンパス(561名参加)における満足度調査では99%の参加者が満足であると回答し、看護大学の魅力を伝えることができた。また、模擬講義・入試説明会を積極的に実施した(模擬講義7件、入試説明会31件)。さらに、新たに高校訪問を18回行い、入試等に係る高校側の要望を聴取するとともにアドミッション・ポリシーに合致した生徒に本学を受験してもらうよう依頼した。(入試・広報委)</p>	A	<p>①-2 本学の魅力を広く伝え、県内高校生の看護学への関心を喚起するため、高校訪問及び進学説明会に積極的に取り組む。</p>	<p>①-2 本学の魅力を広く伝え、県内高校生の看護学への関心を高めるため、模擬講義(112名)及び進学説明会(489名)に積極的に取り組んだ。また、数値目標を上回る17校の県内高校を訪問し、入試等に係る高校側の現状や要望等を聴取するとともに、本学のアドミッション・ポリシーに合致した生徒に本学を受験してもらうよう依頼した。これらの取組等により、入試倍率は、数値目標を上回る3.7倍となった。 ※入試倍率 3.7倍(目標3.0倍) 前年度3.0倍 ※高校訪問回数 17回(目標15回) 前年度18回 (入試・広報委)</p>	A	<p>①-2 本学の魅力を広く伝え、県内高校生の看護学への関心を高めるため、高校訪問及び模擬講義・進学説明会に積極的に取り組む。</p>	<p>①-2 8月から9月にかけて、計16校(県央7校、県南4校、県北6校)の高校を訪問した。また、模擬講義の実施および進学説明会への参加について46件の依頼があり、そのうち、18件に対応した(うち模擬講義7件)。延べ参加人数は、662名であった(昨年同時期は、25件、参加者601名)。参加件数は前年度より約3割少なかったものの参加者は増加し、本学の魅力を広く伝えることができた。次年度も高校訪問及び模擬講義・進学説明会に積極的に取り組んでいく。 ※入試倍率 2.8倍(目標3.0倍) 前年度3.7倍 ※高校訪問回数 16回(目標15回) 前年度17回 (入試委)</p>	B	<p>①-2 本学の魅力を広く伝え、県内高校生の看護学への関心を高めるため、高校訪問及び模擬講義・進学説明会に積極的に取り組む。</p>	<p>①-2 【高校訪問】 例年8～9月に高校訪問を実施しているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため実施しなかった。 【模擬講義および進学説明会】 ○ 本学主催の進学説明会について、例年5月に開催する入学者選抜要項説明会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止し、説明会資料及び質問票を送付した。 ○ 地区別説明会(宮崎、延岡、都城)及びミニオープンキャンパスでの個別相談を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催を中止し、WEB会議システム(Zoom)を使用することで、希望者に対して個別相談を実施した。 ○ 入試に係る説明会や相談会について、オンラインでの開催を検討するために、高校に対して、アンケート調査(ニーズ及びインターネット環境の把握など)を実施したが、オンライン説明会・相談会は開催しないこととなった。 ○ 例年、本学主催の進学説明会には、多くの参加者がいたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、中止となったため、後述の参加者数減少に大きく影響した。 ○ 例年参加している看護協会主催の看護進路相談会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、開催中止となった。 ○ 高校主催の模擬講義及び進学説明会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止から開催中止になったほか、本学の判断で参加を辞退することもあったため、計画通りに参加できなかった。しかし、6月以降、感染対策を講じた上で可能な限り参加した結果、模擬講義への参加は2回で前年度より減ったが、進学説明会への参加は12回となり前年度より増えた。なお、高校訪問は実施しなかった。 【実績】 ○ 高校主催の模擬講義及び進学説明会への参加：模擬講義2回、進学説明会12回、参加人数192名(前年度同時期：模擬講義6回、進学説明会11回、参加人数634名) ○ 高校訪問回数：0回(前年度16回) (入試委)</p>	B	<p>①-2 本学の魅力を広く伝え、県内高校生の看護学への関心を高めるため、高校訪問及び模擬講義・進学説明会に積極的に取り組む。</p>	<p>①-2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により高校訪問は実施できなかったが、可能な限り模擬講義(5回)、看護進路相談会・進学説明会(参加延べ人数111人、うち本学主催14名)を開催した。高校訪問及び模擬講義・進学説明会に積極的に取り組む。 ○ 入試倍率は2.5倍(目標3.0倍)で、前年度3.3倍よりも低下したが、新型コロナウイルス感染症で制限された中、可能な限り入試関連の広報活動に取り組んだ。</p>	B
	<p>② 多様な人材の確保に留意しつつ、入学後の追跡調査の結果等の分析を行った上で、入学者選抜方法等を見直す。</p>	<p>② 入試と入学後の成績について様々な観点から分析を行う。入学者選抜に関わる資料を多面的に集め、入学者選別方法見直しの検討を始める。</p>	<p>② 入試区分と卒業までに履修した授業の評点平均との関連について分析を行い、その結果を合否判定基準及び入試募集人員の見直しに反映させた。</p>	A	<p>② 入試と入学後の成績について様々な観点から分析を行い、入学者選抜方法の見直しを継続する。</p>	<p>② 入学者選抜方法の見直しを行うため、募集人員の変更による影響について分析を行った。また、現行のセンター試験に代わり、令和3年度から実施が予定されている大学入学共通テストについて、外部英語検定試験や国語・数学の記述式問題の本学の入試への活用について検討し、本学の令和3年度選抜の概要を受験生に示した。(入試・広報委)</p>	B	<p>②-1 入試と入学後の成績について様々な観点から分析を行い、入学者選抜方法の見直しを継続する。</p>	<p>②-1 入試委員会及び入試改革WG会議において検討を行い、次年度入試の選考基準を変更した。また、令和3年度入試については、募集人員数の変更及び高校の推薦枠数の設定を行い、令和4年度以降の入試については、入学者選抜方法及び選抜区分の見直しを検討した。また、今後の入試のあり方を検討するために、入試区分や出身区分で見た入学後の成績、県内就職の割合、および国家試験の合否状況などを把握するためのデータ分析に必要なデータをIR専門部会に提供した。(入試委)</p>	A	<p>②-1 入試と入学後の成績について様々な観点から分析を行い、入学者選抜方法の見直しを継続する。</p>	<p>②-1 新型コロナウイルス感染症の影響により、入試を受験できない出願者に対する受験機会の確保について、文部科学省や大学入試センターからの情報、他大学の状況及び本学の入試データ等により検討した結果、学校推薦型及び社会人選抜については追試験を設定し、一般選抜(前期・後期日程)では共通テストの成績を活用することとした。 ○ また、過去の入試成績データを分析して、追試験対象者の合否判定方法を検討した。 ○ 本学が求める人材の確保と受験生への分かりやすい説明を目指し、アドミッション・ポリシーを見直した。(入試委)</p>	B	<p>②-1 入試と入学後の成績について様々な観点から分析を行い、入学者選抜方法の見直しを継続する。</p>	<p>②-1 地域推薦、一般推薦及び一般選抜(前期・後期)の入学生の入学後の成績を分析(入試区分別に各科目の素点を比較)し、入試区分別の苦手科目の特徴を把握した。 ○ 看護学への関心、宮崎県への貢献意欲を判断できる選抜方法の確立に向け、一般推薦、地域推薦の面接要領を見直した。 ○ 地域推薦入試制度の見直しに向けたスケジュールを検討した。推薦入学生の入学後の成績分析結果から、地域推薦入試制度の見直しを継続する。 ○ 入学前教育検討部会を新たに組織し、学生・教員へのアンケート調査を実施した。</p>
			A	<p>②-2 文部科学省が進める一連の大学入学者選抜改革に合わせた本学の入学者選抜方法について、引き続き検討を行う。</p>	<p>②-2 共通テストの導入について、入試委員会及び入試改革WG会議において検討を行い、記述式問題の活用や配点を決定した。また、調査書の活用について検討し、学力の三要素を評価するための総合判定資料として活用することを決定した。英語の外部検定試験の導入について、出願資格として活用する方向で検討を進めていたが、文部科学省の実施見送りに伴い、今後の通知を待って進めていくこととした。(入試委)</p>	B	<p>②-2 文部科学省が進める一連の大学入学者選抜改革に合わせた本学の入学者選抜方法について、引き続き検討を行う。</p>	<p>②-2 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響の中、感染対策に十分に講じながら、受験生が安心して受験できるような入試方法を検討し試験の実施に注力した。 ○ 文部科学省が進める入学者選抜改革については、47の看護系大の学入試制度(定員・出願資格・試験の内容・判定基準など)に関して情報収集し、整理を行った。(入試委)</p>	A	<p>②-2 文部科学省が進める一連の大学入学者選抜改革に合わせた本学の入学者選抜方法について、引き続き検討を行う。</p>	<p>②-2 共通テストに関して、これまで文部科学省の大学入学者選抜改革に合わせた検討を行ってきたが、最終的に国の決定がほぼ白紙に戻された。あらたに導入が公表された「情報」(令和7年度開始)の本学での利用についても、原則2年前公表に向けて検討を行っているが、これまでの経緯をふまえ、受験生の不利益にならないよう、公立大学協会からの方針の通知を待ちつつ、慎重に検討を続けることとした。</p>	B			
			A	<p>②-3 地域推薦入試について、入学者が受けている支援や1期生の就職状況等を整理し、地域推薦入試制度の見直しの検討を始める。</p>	<p>②-3 地域推薦入試で入学した1期生5名は全員推薦地域に就職した。また、推薦市町村の訪問調査を実施し、地域推薦入試の評価を行った結果、推薦地域への愛着を育むことに加え市町村と大学と連携し学生を支援していくことが課題であることが分かった。そこで、課題解決のため、面接試験では、推薦を受けた地域に貢献したいという意志を積極的に評価することとした。また、学生支援の一環として、入試委員会・就職対策委員会・地域推薦学生支援専門部会と合同で「地域医療を考える看護学生スタートアップ講座」を開催し、地域医療で活躍する卒業生の講話、地域推薦入学生同士の交流会及び入学予定者と市町村・大学の三者面談を実施した。(入試・学生・就職対策委)</p>	A	<p>②-3 地域推薦入試について、市町村訪問によって整理した課題を踏まえ、関係委員会と連携して地域推薦入学生の支援を行う。</p>	<p>②-3 地域推薦入学生支援専門部会が中心となり、担当教員と学生による年2回の面談や交流会などを実施した結果、学生の学力差が大きくなってきている状況等が判明し、部会において現状を把握した。上記交流会では、入学生を推薦した自治体、在学生(入学予定者含む)及び教員による三者面談を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一部については実施できなかった。 ○ 地域推薦入学生(令和2年度卒業)6名の進路先及び就職先については、市町村担当者との意見交換等で推薦市町村の受け入れ先の問題などの課題が明らかになったが、学生、市町村担当者、教員の三者が情報共有、相談を続けた結果、最終的に全員が納得の上、進路・就職先を決定(推薦市町村に3名、推薦市町村が属する二次医療圏内に2名、進学1名)することができた。 ○ 令和3年度の入試においては、地域推薦入学生が、卒業後は地域に戻ると強い意志を、これまで以上に持っている生徒に受験してほしいと考え、地域推薦と一般推薦の併願を中止し、地域推薦専願とした。 ○ これにより志願者の減少が見られたが、面接評価において、「推薦を受けた地域に貢献したい」という意志を積極的に評価していく評価方法の実施や、「地域医療を支える看護学生スタートアップ講座」の開催、入学前に「推薦市町村の地域について把握しよう」の課題を課すなどの対応をしていくことにより、地域推薦入試制度の本来の目的が達成されるよう取り組んだ。(地域推薦入学生支援専門部会)</p>	B	<p>②-3 地域推薦入試について、市町村訪問によって整理した課題を踏まえ、関係委員会と連携して地域推薦入学生の支援を行う。</p>	<p>②-3 地域推薦入学生の成績を分析し、苦手科目の特徴を把握した。地域推薦入学生支援専門部会が、半期に一度全学生を対象に個別面談を行い、授業の参加状況や学習の取組状況、履修状況を確認し、必要な支援を行った。4年生に対しては、推薦地域の担当者を行い、本入試のあり方を引き続き検討する。</p>	B			